

NISSIN 日清食品ホールディングス株式会社

第**74**期

定時株主総会

2022年6月28日(火曜日)

お湯も世界も
沸かしていくにか。





対処すべき課題

1. 本文中に特別な記載がない限り、本事業報告中の記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。
ただし、億円単位の表示は億円未満を四捨五入し、また、基本的1株当たり当期利益(1株当たり当期純利益)、1株当たり親会社所有者帰属持分(1株当たり純資産)及び百分率については、表示単位未満を四捨五入して表示しております。
2. 記載金額には消費税等は含まれておりません。



2021年度 実績 連結損益(IFRS)

単位：億円	決算開示ベース				為替一定ベース		
	2021年度	前期比		前々期比	2021年度	業績予想比	
		増減額	増減率	CAGR		増減額	増減率
売上収益	5,697	+ 636	+ 12.6%	+ 10.2%	5,579	+ 179	+ 3.3%
既存事業コア営業利益	496	△ 28	△ 5.4%	+ 7.5%	487	+ 17	+ 3.6%
営業利益	466	△ 89	△ 16.1%	+ 6.3%	458	+ 13 ~ + 33	+ 2.9% ~ + 7.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	354	△ 54	△ 13.3%	+ 9.9%	349	+ 19 ~ + 39	+ 5.7% ~ + 12.6%
既存事業コア営業利益率	8.7%	△ 1.7pt-			8.7%	+ 0.0pt	
営業利益率	8.2%	△ 2.8pt-			8.2%	△ 0.0pt- ~ + 0.3pt	
親会社の所有者に帰属する 当期利益率	6.2%	△ 1.9pt-			6.3%	+ 0.1pt ~ + 0.5pt	



2022年度 連結業績予想の考え方

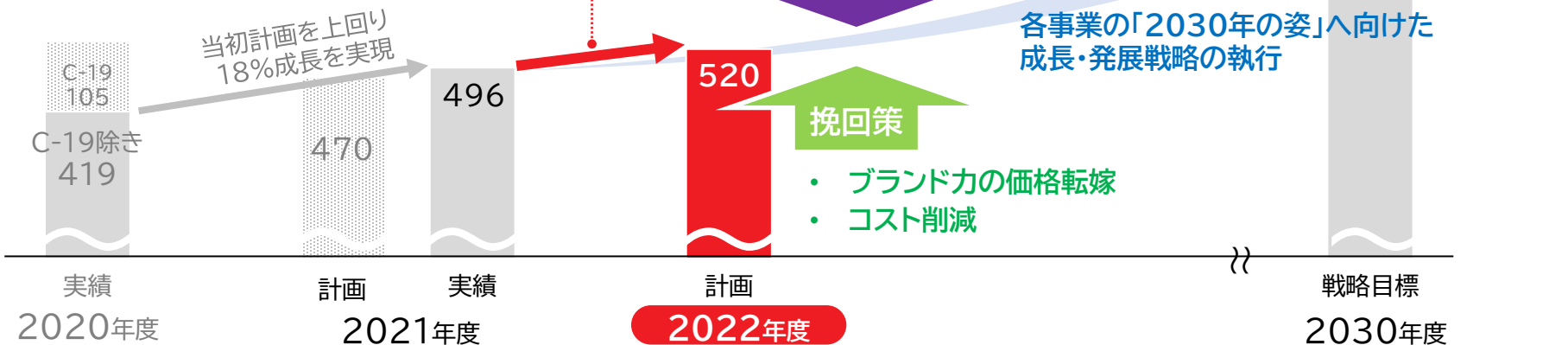
2030年に向けたMid-Single Digit 成長の2年目

極大化する不確実性のもとでの成長

- 金融政策格差も受けた円安加速
- 地政学リスクの増大に伴う資源高・インフレ加速
- モノ・ヒト調達の高難度化

既存事業コア営業利益 (億円、為替実勢ベース)

Mid-single Digit成長を計画
ロシア・ウクライナ情勢「前」のもの





2022年度 通期連結業績予想

(円安加速や地政学リスク増大等の影響を含まず)

売上収益 5,950 億円

既存事業コア営業利益 520 億円

(新規事業への積極先行投資：既存事業コア営業利益対比 5 ~ 10 %)

営業利益 470 ~ 495 億円

親会社の所有者に帰属する**当期利益** 310 ~ 330 億円

EPS 303 ~ 322 円/株

* 業績予想に係る円表示数値は全て21年度実績為替一定ベース

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
”未来の食“
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
”未来の食“
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

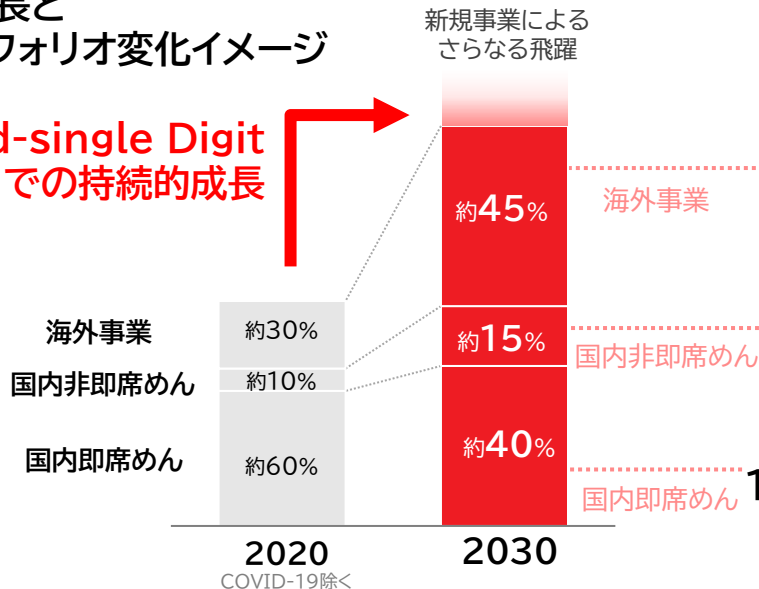


既存事業のキャッシュ創出力強化

海外事業 + 非即席めん事業のアグレッシブな成長によって、
利益ポートフォリオを大きくシフトさせながら持続的成長を追求する。

利益成長と
ポートフォリオ変化イメージ

Mid-single Digit
での持続的成長



長期的な目標／利益成長水準

高付加価値市場における
トップカンパニー

1桁台後半～2桁成長

即席めん事業に次ぐ
第2の収益の柱

1桁台後半成長

100年ブランドカンパニー 市場成長率以上での成長

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
”未来の食“
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ



新規事業の推進 ①

食の価値向上を通じて、世界的な社会問題の解決に貢献する。

Mission

日清食品が新規事業を通じて世界で、社会で実現したいこと。

1. “日本を、未病対策先進国へ”
2. 世界のフードデザート問題を解決する

Vision

ミッションを実現するために日清食品として実現したい、実現すべき状態。

FUTURE FOOD CREATOR
クリエイティブとフードテックで世界の食をリードする

Value

日清食品が新規事業を通じて大切にしている価値観や行動指針。

1. おいしさと栄養の完全なバランスがとれた食事を通じて、未病抑制や健康寿命の延伸など、人々の健康向上と社会的課題の解決に貢献する。
2. 食やデジタル領域の先端技術と食の価値の融合により、世の中になかったユニークで新しい未来の食を創り、世界の食をリードする。



新規事業の推進 ②





新規事業の推進 ③

カレーメシ、ラ王などの既存の主力ブランドや、グループ各社とのシナジーを効かせて、日清食品グループの新たな価値を創造し、社会問題の課題に貢献



おいしい完全食『完全メシ』ブランドの発売(2022年5月30日発売)



カレーメシ 欧風カレー



豚辛ラ王 油そば



グリーン スムージー



バナナ スムージー



大豆グラノーラ 60g

既存事業の キャッシュ創出力強化

海外＋非即席めん事業の
アグレッシブな成長により、
利益ポートフォリオを大きくシフト
させながら持続的成長を追求

新規事業の推進

フードサイエンスとの共創による
”未来の食“
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

有限資源の有効活用 と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ



EARTH FOOD CHALLENGE 2030① - 概要 -

地球との共生力を最大化することで

既存事業のライフサイクルの超長期化を図り
競争力の源泉の一つであるフードテックを大きくステージアップさせることを目指す

日清食品グループ環境戦略



**EARTH FOOD
CHALLENGE
2030**

地球のために。未来のために。





EARTH FOOD CHALLENGE 2030② - 目標と実績 -

資源有効活用へのチャレンジ

2030年に向けた目標

直近実績



持続可能なパーム油

100%

36.0%

2021年1月-12月



水使用量

IFRS売上収益100万円あたり

12.3m³以下

11.3m³*

2021年1月-12月



流通廃棄物削減率

15年度比/日本国内

△50%

△38.9%

2020年4月-2021年3月

気候変動問題へのチャレンジ

2030年に向けた目標

直近実績



CO₂排出削減:SCOPE1+2

18年度比 △30%

基準値:41.6万t-CO₂

2.7%*

2021年1月-12月

42.7万t-CO₂



CO₂排出削減:SCOPE3

18年度比 △15%

基準値:306.8万t-CO₂

8.5%

2020年1月-12月

332.9万t-CO₂



EARTH FOOD CHALLENGE 2030③ - 事例 -

代替食技術

日本初！
「食べられる培養肉」の作製に成功



容器包材

フタ止めプラスチックの廃止
フタ止めシール(プラスチック)の廃止で
年間約33トンのプラスチック使用の削減





日清食品ホールディングス株式会社